

交流録

杉並区 内藤 實（本町六丁目出身）

元勤務していた会社の社友会で米寿・喜寿の会員に祝金授与があった。私もその一人。喜寿は昭和十年生まれである。

昨年は、大震災・原発・ＴＰＰに、殺人事件のニュースばかりで喜寿どころではない。

私生活も幸せな年ではなく大震災の三月十一日は病院のベットであった。

退院して「Ｊネットの「お元氣ですか八月号で沖永さんの「元氣で長生きするために」を拝見した。指摘事項を守らな



いと苦しむことを私が証明しようもののである。

食生活を改善して、血糖値を下げなければならぬ。数値は正直だから、隠れて飲んだり食べたりできない。「体重の快復、体力作りに食欲を優先にしたい」と申し出たら、「病後の風邪は大敵だから、人ごみではマスクをしなさい。風邪に罹るとイチコロですよ」と言われた。

沖永さんは、帝京大病院の外科の先生で安塚の出身で、親切な方だから、相談のつて頂ける。

同じ八月号に、瀬尾さんも投稿している。「誰か故郷を想わさる」の題で高田の疎開時代の想い出を書いている。付属小新年会で皆とは六十五年ぶりの再会である。知命堂病院の瀬尾と言えは知る人ぞ知るで曾祖父が創設者である。また、更に先祖を遡れば、榊原家と一緒に姫路

から越後高田に移ったとのこと、先日Ｊネット榊原相談役にお聞きしたら、そのとおりで、よくご存知である。

小学校時代は太平洋戦争の最中で、空襲を逃れて高田の親戚に身を寄せる児童が多く、終戦と同時に、皆に挨拶もなく、東京に引き上げる状態が続いた。従って、未だに消息不明は多数いる。

瀬尾さんをどのようにして探し当てたか。Ｊネット前会長の太田さんの協力があった。太田さんが百年前の高田の地図を会報で披露したことがある。大町五丁目私の家も狭く記されていた貴重な資料である。「太田さん、この地図は何処から入手されましたか」「瀬尾さんから」「その瀬尾さんは知命堂病院の瀬尾さんと関係ありませんか」「あるよ」からスタートして探し当てた次第である。

この一年前にも疎開組の竹内さんを見ている。

「内藤さんですか、疎開していた竹内です」「覚えているよ」。

彼のお姉さんが、有澤さんから私の電話番号を聞いて、竹内さんが電話してきたのである。六十四年ぶりである。Ｊネットに入会して「お元氣ですか」に投稿してくれた。彼の先祖も釜谷山にお墓がある家柄で、祖父さんは東京裁判の弁護人だった。弟に元鎌倉市長とか元弁護士会

会長がいる。

そのほかにＪネットに一時籍を置いた疎開組もいる。元ベトナム大使がいる。これからベトナムとの交流が盛んになりそうである。ふるさとのために彼なら力を貸してくれるであろう。既に入越市の会社から相談がある。

毎年の新年会忘年会には疎開組は積極的に参加してくれる。疎開の経験が楽しかったのか、友達が温かく迎えたのか。小学二〜四年生時代の話、六十数年前の何もない時代である。

元氣で活躍している付属の同級生二人もＪネットに入会してもらった。

一人は玉泉八州男さん、もう一人は池田均さんである。

玉泉さんは昨秋の叙勲で瑞宝重光章。シエクスピア研究の大御所。

池田さんは画壇で活躍。旺文会の理事。（水彩画）

玉泉さんは昔の大島農機の荒川寄りの稲田の橋のたもとのお神明さんの二男坊で、私はよく遊びに行った。田河水泡ののらくらや少年倶楽部を読ませてもらった思い出がある。

池田さんはホンダのデザインを定年退職してから画壇に登場した実力派。一昨年となるが、帯広のすずらん香りする美術村で六花亭会長肝入りで展開開催。夜は市内の倶楽部で、六花亭会長の招待

で、日動画廊会長、ホンダ社長も参加で盛大なパーティーとなる。名物の焼きタラバガニとアスパラに寿司コーナー。北海道の味を満喫。閉会の辞をやれと言われ、何を喋ってもいいことで、一杯入った勢いで「池田君は山猿と言われて皆の人氣者だった。絵はその時から玄人肌。このように、会長はじめ皆さんに可愛がれているのにビックリしました」一同大笑。

Jネットは会員も一時は千人近く登録されたが、内容は更に充実している。会員も多彩で情報を上手に活用すれば素晴らしい会となると自賛している。

最後に、植木賢三さん、野口春雄さん、星野清三郎さんの三長老をJネットで語り継いでいきたい。

植木さんの最後は「妙高山が見える」とベットより幻覚症状、倒れる前に渡された自分史の走り書きをまとめて吉越文士と立会いで加筆修正したが色々注文をつけて「これでよし」で息を引き取ったのである。弔問の皆さんには「八十路を妙高とともに」の四十五頁の自分史本をお持ち帰り頂いた。

「君は自動車があるから画廊に運んでくれ」その後「空き室があるようだから預かってくれ」だった。厚かましさを苦にならなかつた。野口さんからも「君はよく面倒を見るね」と言われた。太田さんが最近の「お元氣ですか」で植木さん

の南葉山の絵に触れていたが、やはり預かった絵の中にも一枚南葉山の絵があった。私の友人が迷わず、その一枚を買った。太田さんの文を読んで南葉山の絵を身近に置きたい気持ちがわかった。植木さんとは、地下鉄で見ず知らずの私に声をかけてくれた時からの短くて深い付き合いだった。

野口さんとは、常盤ハワイアンセンターの生みの親であると感じた時からである。会報十七号に詳細を書いておいた。映画「フラガール」が封切られて数ヶ月後に亡くなった。

星野清三郎さんとは、防衛庁からわが社の顧問で来られての付き合いである。足が不自由になり電話で何回か話したが耳が遠くなり一切連絡をお互いとれていない。海軍OBの大御所。連合艦隊司令長官と呼ぶに相応しい。江田島に一緒したが、全員最敬礼。

Jネットの会員の繋がりは、今流行の言葉「絆」でありたい。

諸先輩を見習い、健康で頑張りたい。喜寿を迎えたことに感謝して、冒頭の喜寿の祝金袋は女房の手元。



【写真】付属忘年会

昭和二十六年中学卒及び小学疎開組
地元上越より大島精次さん参加
このうちJネット会員十名

(瀨尾、竹内、玉泉、池田、
杉臣、肥後、森成、私)

平成23年 於『銀座蔵の桜』